語林類葉

十上

縑洲藏

ホ 2
398
10

388
10上

宮城県図書館蔵書

語林頻葉巻之十九

清水濵臣輯

良行らの部

一言

ら等の一人ノうへニテイヘルアリ

万五三十八 許良ニサヤリヌ○同同同 絶綿良ハモ

○同九世三 處女等賀○古今序賀之ら○ものら

○同 巡三やらむのついゐちら 三のむゐ人よらのらひ

て後○源むろ〳〵ふゐかゝ〳〵らゐゐゐくゝしのきこ○古今

伊勢考 ものてらゐ木のもとくまもとく○拾遺雜賀 世ゐ

まれなる○うけふ日記 おなしつくる松の枝 是ハ苔ヲコケラト

云リ○万葉 柯ト イフ ニ同シ 折取羅生松

拾遺物名 一夜松うしとらこそおもひけるかな

散木 あちさゐの花のよひらにおもひつゝ

同 あちさゐの花のよひらにもる月は

○二首とも夫木ニアリ

庭ラト イヒカケタリ

二言

らら 埒

宇都保 祭使

兵部丞のさすか馬にのりてらちふむまて馬

のけかゝへつゝ○ 和名 馬埒 世間云良知

某らひ

西要扶左のうちのかのこちからにかれさらん○

ホトラヒ

中ラヒ

三言

らうた 領 らうたし

栄花 ことそねたし

らかい 羅蓋

竹取らふくるまくむとりてしまのらいさしあり○

摞鈾（ラニウム）

須東屋ゆき忘らてんのさはやの乱るんえん○

らんぶ 乱碁

万代秋一示云のらんざのかけさ伝奇風流の扇小

恒徳ム ○拾遺雑秋 天禄四年五月廿一日圓融院の

みやとこ一品宮よ御らをとてらんさとせたるる○

続世繩あ次うえさもふまてらんさもふおとの

とゆんるるとそむるの云ふもかるや有ゑと伝り

るる○和訓栞ノ説シタガヒカメシ

四言

らるあり 万葉ニ功労ヨツミシ人ヲ云

大和女もいとらるある人ゑる○同 ゑきのさとい

ゑるふいとらるあるをのくて○同 らるもるる

き人こあるとゆく○同 ゆとらるあるて○

らるとけ

字故保条後 山も野もの字は作者の同 多弟君

らくらく

和名抄

らんとう

中務日記 らんとうのくきなへ〳〵ゆかしうし○

藍婆鬼（ランバキ）

盛衰記 白川院御宇ニハ兼暦元年ノ春一

一一ト云 鬼京中ニ充満テ十歳以前ノ小者十カ

八九ハ取失ハレケレハ○

りの部

一言

理

拾玉三

住らしと思ふべきつまを去られぬ浦に世を送るかな

○

二言

龍

竹取 ものいふかぐや

三言

利口

続世継源氏のミやびに所　この比仁和寺比丘の利口をあり
なき　何るふ口乃をこもあらむ　○俗ニ云コシ
ト云ヒ
ナリ

四言

つうかく　立楽
只俗日記　節会乃きしもの又つ私のさとの里と立楽
ひとしもの

リニタウ

あくらめん
源野分あんのう飲食の　ものまれつまるもこれとも
みくまもしるをとをくに引出あるの　ゆる屋
和泉式部集
梨んのもとの人をんてふの　ものをとりあるれつ

○

理つらく
盛衰記四関白殿ハサコソ御心モ猛ク理ツヨ
クユ、シキ人ニテ御座シカ共

ほんのて 河輪千輪説也

源 若菜下 ほんのてんとも〳〵さにてもかとあるはこの物也

りやうり 料理

和名集 庖 料理奥鳥有謂之庖丁 ○日本後紀十七十五丁 平城

天皇大同三年七月庚子停内膳司食長上一人料理長上一人○類史百七職官部十二同○

江次第 二大臣大饗 大饗 有料理所立作所

蓋料理所者兼用意希物之所也立作所者當座

調進肴物之所也○新猿楽記包丁料理○

五言

ほんし客

源 初音 公事根源 ニ書入ベシ

六言

ほんのふね 吏法書

宇治保氏 ほんのふねをいとなれくつるの久〳〵

〳〵〳〵〇

七言

あやうく免きゑる

中務内侍日記　玉佩とて玉をつゝぬきてつけらる

ゑまのもりふそうちかるのうゝ緒をつきらる

ふれいふゑんのうとくよあやうのきはにまうゝ

〇同ぎらゝえいのおとゝうちふあやう免きて

ひゞ〳〵〳〵

九言

あらゝとうけきちゐ　龍頭鷁首

栄花　ゑの花

るの部

二言

留主

玉葉神祇建長七年十月春日社に行幸ありて時清忠ともに さゝら〳〵還御待奉りたに ○増鏡

烟まゝしけり忍ぶみ仏とよ 二条 油小路ゐ火つてきて

るる

竹取龍ハ ふるゝの るる山〳〵 ○源氏物語 るるふれ

ておほるれど

和泉式部集
[illegible]
曽丹集
[illegible]

三言

流浪

今昔廿六 十三 此ノ流浪ニ行ケルホトニ

四言

[illegible]

大和 上 達部ノ[illegible]ノ同院の人ニ[illegible]て

いに[illegible] 俗ニ云ツレタチテ ○空穂 国裏 上 [illegible]

[illegible]

[illegible]

類親

今昔廿九 十五 祖共モナク類親モ无ケレハ ○

[illegible] 黒代

宇多保 吹上 中 [illegible]

類伴（ルヰハン） 今昔廿五十三 其ーー廣クシテ

るり君 玉鬘幼名

源 玉かつら

五言

類むらく

玉かつら あれおもとよふなるひろくぬりてさいてまつれ

○

ルリノ天蓋
ルリノトホリ
ルリノトヒラ
ルリノ杯
ルリノ国

るりの池

拾遺愚草 伊呂波四十七字哥
るりの池まさるの色をそ以てくさ花のみとりをそうけた池さり

○続世継 あをのりくひの るりのこころのほとりの ○源 宿木

るりの御さかつき色いしきふんあるを ○花鳥 寛治五年万寿元年天盃用瑠璃御盃

新後撰 後頼
はるかなるすへの松木まつも来てるりの光とも見ゆるかな

支承十四 殷富門院大輔
曇なきるりのうてなに咲そめしはなれぬ池の色ぞまさる

○増鏡 北野雪 るりのてんかれ 天にかゝやく ○

艸の部

三言

芝艸

靈芝

記畧天長四年八月乙巳皇后宮亮正五位下大枝朝臣總成獻芝草四株其中大者長二尺許其爲狀也紫丹色本一而末二枝往々有節々間一寸許橈曲不直寂未差白總成曰典侍子文王禁中宿所枝敷下生○同天長七年八月乙卯内豎真野王上芝草一莖○

療治

栄花ゑの寸白よおゝしまんとて乞方のまゐ ち
ゝをつゝ用つまゐゑ○

綾
まゐの集
字数保藏完まゐうの名をなり○円円まゐ乃うゑの
ゝ用○

四言

まいやう 例様○平生ノマヽノ意ゑ

竹取かぐや姫もゑんぬまいやうにゝ今ゑし
とのゝ給ひて○

まいあう
春陵七ゝう 戾道ぬや 道理ニ皆きゝとり
きゝの条 こゝろ明り ○枕 冊子紙
とゝなんゝ用ゝとて○

まいゑと
栄花 月夜十二 源氏まて伝人よ明りてゐゑ伝ゝゑ○ノ子尺

八十〇

れきさん
拾遺負外
きさんのもとの〜をるれ枕風やふしきし人のけの成
吏本士山

れん中 大納言の室につゝ
中務内侍日記 花山大殿とふるさとゝまん中之〇

五言

れいの神 非灵アル非之
土佐日記 さの住吉のまつはまりのこゝをうゝ

六言

冷泉院
花若葉 帝王系図 去弘仁十四年四月十一日 遷冷
然院十七年 譲位於皇太子 天暦八年三月十
一日 改冷然院為冷泉院 ゝヒくノ冬上故然ヲ
三見エタリ イミテ泉トヒンヨシモ

十言

れいせい勢ふとは　月水

○宇治保しみまいれ

栄花

ふとは九月ちりせぬ　○徒底二上世七しへてのくれ

あつるもらぬ　○月円世　まいせい勢ふ

ゐもつ秋ふとのこおいし侍上ふ

れいの侍さうのなまも　懐妊也

栄花　月毒　十四

ろの部

一言

櫓

和泉式部集

ろもおきてうせよ宮ひるあるとの行きのるだよんとまり

古今秋上

名月の夜の明るもしらぬ君ゆえ明もつてよ

コレハ櫓也契説　○

二言

ろく　禄

玉篇　禄　賞物也　○竹取　ちうふろくなるこ重ら侍

○

六座　三言

讃岐日記　花山院のそのにさまたけの弁を入道殿一条院にうらうらとたさくつまざりて

うんと仕うまつる様角よ

録事　録

江次第二　大臣大饗　定録事　按云為　勧酒於上

官座差其人為録事也

ろくろ

宇於保　春日詣　清つきとろくろにさきて○名造作具　轆轤　○宇於保　吹上上　ろくろしとろとろてさきておれしてくろくろ　○和名鉦

ろくろ　勿論　河

源若菜下　○宇於保　職院

路養

類史八弘仁十四年十一月ニ云、又運悠紀主基両国雜物搭支各給路養

四言

六宗

江次第抄三延暦廿一年講用六宗僧所謂華厳天台法相三論倶舎成實等宗也

六言

六条家

袋中子三五十二

六波羅様

盛衰記一何事モ――――トヽテケレハ天下ノ人皆学之○

七言

六衛府

竹取 ろくろくのつうせい 六衛府 ろくろくのつうせいあはせて二千人の人と○

語林類葉卷之二十

和行
わの部

二言

清水濱臣輯

ゐか　若君ノ畧

ゐの毛　孫下　ゐをくゝ　みるゝし　それとゝて。

和歌

源　ゐつゝ　ゐの和ゐ　ゐつゝ　ゐのとゝ　ゐ　ゐ　ゐ

○金葉

○拾遺賀　殿上のとゝさい

和哥つくりまうす ○栄花物語為政公
序を奉る ○今昔廿四 和歌読共二
奇読セテ書セツルヲ
新古雑上 民部卿為光
ちはやぶるの風ふきぬれば
異本能宣集 和哥合 点

月
堤中納言帖 髮のすこしきりてつきいみじうをかしう
さとりけいまして ○源氏四 月めでんさしひきの
よいれたいまるまゝ めてるきぬ

畳三ノ帖ノ
一尺ノ調ノ庸ノ積ノ

某綿
空穂古おきけ ラ浪 今のふけ世ノ月ノ
雪のふりうけるやうれるのふ尺ふりもりきふ百
枚ふりまして ○類史卅二 帝王部十二天皇遊猟延
暦十五年正月癸丑遊猟登勒賜四位以上衣
五位帖綿○綿種 音語イ部一 結琴条 ○大安寺資財帳
畳綿三牒○逸史九引 類史百九十九殊俗部崑
崙延暦十九年四月庚辰以流来崑崙人所賚綿
種賜紀伊淡路阿波讃岐伊豫土左及太宰相府等

諸国殖之其法簡陽地沃壤堀之作穴深一寸
衆穴相去四尺乃洗種漬之令経一宿明旦殖
之一穴四枚以土掩之以手按之毎旦水潅常
令潤澤待生芸之○逸史十引類史百八十六佛
道部十三 絶物僧 各絶一尺綿十屯○同西引類
史卅四 延暦廿四年正月云又別収調綿百五十
斤○今昔廿六十八 畳綿百両○江次第二孟旬
宮掌令積抄云今案庭積綿内臓催之○

三言

ものの死

愚管抄六 中納言ものの若死をしてを

ものの抜 綰

枕冊子三十四 抜りみの尾のやうなるものを抜きてほとゝぎすの大和さゝなるを抜きしこれも抜てつみまゐり○

和琴

康富記文安六年九月十七日大炊御門殿被仰云

和琴天照大神岩戸ヲ出給候時神樂器也弓六
張並ヲ弾之依之有六絃云云○長明無名抄上和琴ノ

新六 衣笠内大臣
笑くもい東のことはあつをたよりまつ名友風この花

○

[illegible] 綿子

玉勝間 童蒙抄 [illegible]
[illegible]
[illegible]昔ハ[illegible]

本居云今世の[illegible]
のさ[illegible]

[illegible]

宇多保元開 [illegible]孫[illegible]おとうけ○今昔ハ四世八此中
将式所ニ大破子トヽ云物ヲシテ奉ケルニ子
日三タル所ニ此ク書付タリ○同世一八餌
袋破子酒ナトヲモタモ○内日九大破子ノ多ク
入ケレハ佛ノ僧ニ破子世荷許調ヘテ○支水
七家集祭主神親
伊勢嶋ふよさの海より飛かふうえの空も吹ハ[illegible]
はゝ鵜の[illegible]を祭主神親和泉式部に

[illegible]

和泉
武部

[illegible]

○源初考 [illegible]

来可被労 給大破子

[illegible]

金業庶下藏人 [illegible] 仏内 [illegible]

[illegible]

三日月のおほんけれらね [illegible] 雲の [illegible]

○伊勢物 崇徳院

[illegible]

[illegible] 我こ ○おのれ一人よつ [illegible] ん ぷ ハ 助注の [illegible] 等ノ [illegible]

古今長歌 伊勢 [illegible]

[illegible] ○貫之大井川序 [illegible]

拾遺雑下 昔 [illegible]

○後拾遺序 [illegible]

四十三 [illegible] ○落 [illegible]

四言

若親（ワカオヤ）

弓取が家風　弓のおやとつまとれくのそなへ　産婦ヲ三日宮ニ

ムカヘテ若親ト云

弓のつき　若附

栄花　花山　廿三　ひくものうらのくしら　絵てるとくて

弓つきしふへき人をと

若薫

雲井はみの弓　門前に若薫をえ――て　○布衣記

弓のくゝ　若蘇

栄花　若枝

手を添て待つる生の弓のくゝりの

○

弓の弦　放緩

続世継　むらさきのもろおとり弦おかけ　ふてゐる

くしきこゝろしるひ　○栄花　玉のうてなおけ

弓のすみ　みゝきこゝろ　○

とぐして

[illegible] 寛元 らう中將の羽衣とるのうゑのきて

ふれうい とくてをしらるゝ〳〵○

けさら

栄花衣珠 [illegible]

袋まてつゝうこまつ〳〵○同 烟後ノ奥の上達部ハ

香爐を五葉の枝ま つまむへう 殿 上人いとけ

さら [illegible]

ぎしうう 童謡

盛衰記十楷ハ何楷国主ノ楷八重ノ塩路ノ波ノ

寄楷 安徳帝御誕生ノ時ノ童謡

ぎしき子 未詳

万代亦ニ基俊

あふとはるゝ [illegible]

○

ぎゝ吏

東鑑七但態々不及被相尋事也

忘緒

経亮云半臂今ハ裝束家ニ着セヤウノ傳アリテ大緒ヲハ忘緒ト云テコシニハサミ別ニ小紐ニテ結フフニナリタレヒ台記康治二年四月廿五日中略半臂伊通曰正儀只以大緒結之何可具小緒哉余曰諸自以後不可具小緒○假字裝束抄頭書基量卿云忘緒事見永淵記廣三寸五分長一丈二尺年火又可了簡帯長可徑腰是ヲ引帯ト云忘緒ノタヽミヤウアリ二ツニ折テ口ナノ方ヲ三分一程ニ折テ又其中ヲ引帯ニテ結○台記二久安五年十月十一日日吉行幸也二位中将中略半臂如下龍面身有裏其色如面襖忘緒等無裏黄織表袴無裏折枝丸文如常云云

綿衣

東鑑卅四廿二若君御着袴ノ条其後着始綿衣給云云○今昔十九十三条我力着タル綿衣ヲ取セテケリ

[illegible]

栄花 玉臺 [illegible] [illegible] とのゐとして [illegible]

[illegible] ○同 [illegible] 賀 ぼんなりいもんりのころ

[illegible]

[illegible] 踏 [illegible]

花鳥 [illegible]

○源竹川 [illegible] [illegible] 花もこんとの人の

[illegible]

[illegible] ワタリ イマシノ紗

中務日記 [illegible] 井 [illegible]

に○空極物語 祭使 [illegible]

[illegible] ○唐鏡 [illegible] 此夜

[illegible] 渡瀬 ○ [illegible]

後撰秋上 孫京 兼三 七夕 [illegible] 川 [illegible]

ワタセ

○拾遺愚一 重出

中務日記

川霧に [illegible] 小車 [illegible]

○

戰慄ノ点

今物語

竹取

伀歌

竹取物語ハ造られたりとのひり

保憲女集

○

栄花月毛

幼名

きみときこえしの

和名抄

○尚歯會記

七枚を東乃庫にしまひ

○

挺衣一上 廿九 ○源上若菜 [illegible]と[illegible]この[illegible]○細和
[illegible]あいもそう つまこめる[illegible]

[illegible]こう

玉勝間十二 [illegible]なめら安濃津い芝ゑ春房の
[illegible]りなる中暑海乃藻れ[illegible]
藻のさ[illegible]しる出れか云云

[illegible]ほゑ 自讃 河海
源物校 [illegible]ほゑ[illegible]

[illegible]げて

源夜点 ちゑせきい[illegible]けてゑ[illegible]ふ○
○竹取中納言いはらけ
栄花
[illegible]と人よきかせとしたれと○

[illegible]き 笑

四季物語 [illegible]月 [illegible]の[illegible]ほの[illegible]
[illegible]の[illegible]○盛衰記土説法シスマシ
[illegible]と[illegible]
[illegible]ト咲ク丁ハレケル○大鏡二[illegible]

ゆをうしめれを　ものいふことゝみゆれなるの○

[illegible]も[illegible]

狭衣三

武蔵野の草根をみゝ[illegible]れも[illegible]枕[illegible]もおとる[illegible]

文木卅六　久安百首　季通

[illegible]通[illegible]人もいつさ[illegible]も[illegible]やゆ[illegible]の[illegible]

久安百首秋　[illegible]

ふけやゆけ[illegible]れ[illegible]のさら[illegible]れも[illegible]を枕[illegible]れ

○

六言

[illegible]ホコリカナルサマセ

今昔廿五　服ヲ搖ラ扇ヲ高ク仕テ嗔テ云○同廿三

陸奥五ノ条　服ヲ搖キ指ヲ巻テ○同廿三　相撲服

ヲカキテ已カ蹴テンニハ生カシ○

[illegible]

源

○同　東屋[illegible]

のに[illegible]ひ[illegible]つの[illegible]を○栄花　月宴

[illegible]　[illegible]

[illegible]

源綱門[illegible]

山家集 休馬を校[illegible]

走水 正七

[illegible]

源爰 [illegible]

童相撲

三代實録云貞観三年六月廿八日辛未天皇御

前殿観童相撲先是近臣分頭相折各為左右云云

○廿九日壬申晦云々○同四年秋七月五日壬申云云

○六日癸酉云々○同五年秋七月八日戊戌云云○

[illegible] 我ハ元色之自慢

長明無名抄上 [illegible]

○

七言

[illegible] 若生姿

隆信集 巻四 はの部 [illegible]

○

[illegible]

万代巻一
年も経ぬるかもこなたと立渡るあらもとふ浦波
夏今巻三 [illegible]
[illegible]
袖中三

[illegible]

今昔十九紅 西小向テ行クニ橋平ヲ不見

八言

きつけのきんも

和名鈔被 ○字加保 吹上中 きつけのあをき二てり

[illegible] ○同 同 きつけのきあきるみやまれ人と

○

みの郊

二言

みる　居田氏
夫木七五在百首　俊成々
かつもらくみるのこいちょうをそなつこ

○

みと　井所

あるのみと　後撰　大和　枕冊子　家ハ
ふ月雨くるのうえての水越てり江のもりをそのあらん

○

みやまふ
みやこの
みやび

みや

土佐日記 家の人々出入りしたりみやこの。

三言

居飼

増鏡 異本北野雪 居飼御厩舎人ゆてふれくきさら
のきくり ○同 烟未々御隨身居飼御厩舎人ゆて
いよせんといろくをつくした。 ○東鑑廿三 居飼四
人二行御厩舎人四人二行一員一行 ○同廿四 居飼

四人二行

みるくし 堀概
中務内侍日記
ふりそやみるくしよつれくに柴舟のきしをふれくいつちゆらん

○日本紀 ○古事記 ○字鏡抄

みるめけ 居長

志の乞弘上 みるめけのをとものくしら ○栄花 根合 うち
ふとの〜みるめ人の みるけ ふみ とる小て
清子のおゆ〜よのみるめ人 ○字数保 次上 中 みるめ

けさ三尺ばかりの白うの絲乃ち酒ひ花 ○淡雲四 みるもけ
のほのかに〳〵ものうくうりて

みるこち

源少女 みるこちいとをきまし〳〵そのを

みるかり 居歌 ○モトノマヽニテ居ルナリ

なをなれい花もをふゆ成ゆり 雲かれりゆふくとこうれと
○ 稲荷よいひの主人
この俗なるかうえ

みるかうま 居隠 四言

宇治保 藏屏 うへのおとあれこそ物やあらハ明とて
女清の君よ ゐうくれるへハ ○

みるを同じ

枕冊子 廿八 居 うしろの方 欄ふかうえさまつきとの
やう〳〵みるをまし小清水のかにむつひて

居所

頼政集

雪ふれハ何ふかハ分をうをとき分るものゝ下の花を見

みゝ孫ふり

字治の院宇みTの所ついちふかしるうてみゝ孫ふりし

みゝてり

みのとき　人定（サノトキ）紀

万

後撰　秋中　ちゝ人をとうてつ[illegible]とうきれしとの花をふきめる

秋のちゝ人をとうめてつ[illegible]

伊勢物語　六十九段　女人を[illegible]

みゝ[illegible]

玉葉三　せちふおわえなつ女乃人ゝ多[illegible]

みゝとゝ

今昔廿八　廿八　口々ニ井リメリ程ニ〇ハシミルトヽ云程ノ下ニ語字ニヤ

可考

五言

みゝ孫の時　夫子時

源浮舟　夕月ゝ出せおそ〳〵ありてゐ私の門
ハおハ〳〵ちゝつきふん　さてあつきふをゝらせゝ
ゝ○

みゝくつち
和名抄
夫木ニ七　浮つゝち　仲正
ゆしさみゝくつち系うちゝゝひみきゝゝ昔恋

○
しゝんふゝゝき
源花宴　○月浮舟　○同巻　○月　梅木　○月　ゝゝ　○

月梅枝

六言

みきの命婦
大和

みゝゝゝゝき
盛衰記十早々出仕シ給テ田舎忘アルヘシト
宣ケレハ○

物語ー
月並のー
下ー
[illegible]ー
地獄ー
ー師
男ー
四季ー
かゝらー
紙ー
女ー
似ー
[illegible]ー

絵の部

一言

絵　繪

源 絵合 そのかみの絵どもを分へさうて ○同 [illegible]の月
並の絵どもみられ男女よかとらとまつけて ○弄
十二月の絵く 一勘 年中行事絵之
拾玉 異本 らのへうしや[illegible]しみゆる[illegible]いその上絵かきつる秋の花[illegible]
夫木二 清輔 胡蝶もみの[illegible]ちよ多かなりとし絵ふうかるそちの絵人
円 土御門内大臣 花ちるて[illegible]色らく[illegible]の家たり絵なりけり
○赤染集 二 地獄絵 ○金葉 雑下 地獄の絵 ○栄花 [illegible]

屏風―
和―
焼―
泥―
火筆―
火繍―
白―
合戦―

あやのもんにちるいろをし〇同衣珠ちる点して〇
かう点 栄花根合 八丁十四丁 〇栄花根合 男絵ねと点しそめし
り吹せるふ〇源 絵合物語 絵ハさ白うふぶ川のし七福
さう絵るを〇同四季の絵もいかへの上ノ井ともの
月次絵ノ丁也〇同いろ点吹ありあて〇ちるい点 栄花根合
廿丁〇同 円 六乃題のゑを男絵女絵とうきいあるみ
〇古今著聞集後堀河院御時似繪を以好
ありなる北面下臈浄随おれとの絵を左京
太夫信実朝臣とゑしくうせるまし〇今物語や
きゑとめてるいちるし吹うんなましハ〇東鑑卅四 仁治

二年十一月廿七日當將軍家於関東射手
似繪可被図之由有其沙汰今日以評定之次先
註其人数〇今昔廿四卅一 蛮繪ニ蒔タル硯ノ筥ノ
蓋ニ清氣ナル薄様ヲ敷テ〇同 同廿八 此中將屏
風画ニ遥ニ沖ニ出タル鈎舟ヲ書タル所ヲ見
テ〇盛衰記一七丁 畫図ノ障子ニ百詠ノ心ヲ
繪ニ書セ玉ヒテヤカテ一筆ニ色紙形ノ銘ヲ
モ書ヒ玉ヒタリケリ〇今昔廿一 四 堂ノ後ニ有
ケル壁板ニ徒也ケルマヽニ地獄ノ繪ヲナム
書タリケル中暑此廣高カ書タル障紙ノ屏

風ノ繪ナト可然所ニ有リ○貞丈云和繪ト申候
ハ唐繪ト申ニ對シテ申候唐繪ハ孔雀鳳凰獅
子布鸚鵡ナトノ類唐花ナトスヘテ唐メキタ
ル物ヲ画キ候ヲ申候和繪ト申候ハ梅櫻柳杜
若撫子鶯燕ナトノ彩和哥ナトニ詠シ候類ヲ
物ヲ画キ候ヲ申候○盛衰記四十三十三束ニ
伏ノ白篦ニ山鳥ノ尾ヲ以テ矯メリケル羽本
一寸ハカリ置テ三浦小太郎義盛ト焼繪シ
タリケルヲ○拾遺秋廉義公の家の紙法に
秋の月画き池ある家ある所 結画に對して云ふ ○江次第一

廿五 蛮繪

○増鏡考浪人の図ふ女の本を多く拾ひ集めの似
繪をやらんとて又の帝も仕ふまつる○新勅賀
涅槃屏風石清水臨時祭定家○今昔世一
五 蛮繪着タル童ノ鬢結タル二ツ船ニ乗
セテ○茶餘客話云松江火革画○蔣心餘忠雅
堂集刘景韓火繡画歌其詩云朱庵墨詮ニ○濱
松三 人乃見る法ものるるれとノ多小○増鏡宮
ちん法の五尺の屏風をそなへて○中右記寛治

八年八月十九日賀陽院哥合中略和哥書物
巻文各五巻春夏秋冬祝各一巻瑠璃軸色々之色紙下絵左方女右方男絵皆書哥情
欲美麗過差無極○枕冊子は昔ゆかしくきこゆる女
絵の詞○同四十三段御佛名のあくる比獄法の屏風
を渡して○栄花物語十二月十九日よりはじめて
御仏名とて地獄法の屏風をたてらる
○東鑑廿六寛元三年十月十一日来於京都
以平将門合戦状被令畫図之去夕参著之間
今日於将軍御方丈殿覧之敬隆読申其詞事
終有御酒宴○同十九日兼元四年十二月廿三日

奥羽十二年合戦絵自京都被召下之今日御覧
仲業依仰読申其詞云云○同廿十丁建暦二年
十一月八日上略廣元朝臣献覧絵者図小野小
町一期盛衰事朝光卿絵者吾朝四大師傳也数
巻之中此両部頻及御自愛下略○同廿一七建暦
三年三月廿八日長定朝臣献絵二十箇巻納花
絵堀古今以下三代集中宸女房作者取其詠哥並
事書之意図之将軍家甚御入興云云○新後撰
釈教美福門院に極楽六時讃を法華の心をもて六
ゝ色きゝ分つゝ

法華―
維摩―
万燈―
長講―
龍花―

某會

万代雜一後白河院法華會ハ始リテ云々 平康頼

○千雜上 僧玖光法華會の講師云々○右旨云

此維摩會ハ興福寺ノ毎年十月十日ヨリ十六日

ヲ云おさめる○栄花御着裳四月十日四堂ノ万燈

會せさせ給法○長講―政事要略廿五右兼和十三

年歳次丙寅故太政大臣贈正一位美濃忠仁公

良房奉為先考冬嗣先妣忌日於興福寺始修長

講會也○栄花ノ又万燈会ハ行せ給ひてく

水鏡下桓武 延暦廿一年正月十九日ヨリ

高雄ノ法花会をおこなひ給ひあさ○東鑑四十八

鶴岡別當法印隆弁上洛園城寺興隆並勢行

龍花會○続後拾雜中 ゑんの山の六月會の勅

使に二ゝゑのほうゝく坊の柱ハ書付ケ 光俊

ゝゑ出と手のつゝを毛ゐ二ゐ公ゐゐ峯乃ゐ雲

○

繪馬

朝野群載巻二献供物於北野廟敬白献上取要

色紙馬二匹中畧　寛弘九年六月廿五日○宣旨卿

記永正十七年十一月九日云云　繪馬二枚進○本

朝文粋巻十三北野天神供御幣并種々物文

中原長国献上大江匡衡　色紙繪馬三疋寛弘九

年六月廿五日○支木廿四家隆もてやらてこそけ

哥ハ天王寺繪堂惡鎮和尚つくりてこそ

の障子に

三吉

ゑんく

今昔廿九廿九　女ノ堂端ノ端ニキテ走ルヲ見テ○同同廿五

走リ喘タキテ来タリケレハ○

繪堂

壬二下　天皇寺絵堂ハ大僧正ゑんくうの後云云

ゑんさ　圓座

ありゑんさ　ふんゑんさ

中勢日記　それさよゑんさをしく開白大臣のふあり

ゑんさ其外のゑんくのふうもゑんさ○

ものいり

今昔廿卷 大キナル骨淨覺カ咽ニ立テ工ツノ〳〵ト吐逆シケル程ニ骨不出ケレハ遂ニ死ニケリ○

ものふくろ

赤染二十八 ○金葉雜上 男のふくろ二ツ三ツ云云○堂花浦々別十一ウ ○宇治保 吹上中 ものこもきこえたるものふくろ

ふくろ○今昔六条 餅袋ニ干飯ヲ入テ堅キ塩和布ナト具メ○同同十条 餅袋ニ菓子ナトヲ入テ持詣タリ○同廿七十二 大ナル餅袋ニ交菓子ヲ銘ト等シク調入テ○同廿八一 餅袋破 子酒ナトモタセ○宇治保 国裏上 ものふくろ ものの日荒用ものふくろ ものほきやくのものふくろ ものよ白銀の錢一ものふくろ ものほうものものふくろ ものかしてのけて一ものふくろ○後保一 ものふくろ○同 同

烏帽子

太平記十三 竜馬進奏 細烏帽子

烏のくもあてをくあり弓くるをれらいそるゝ烏のほけ祭

○増鏡月草花内大臣殿ハ乃子の別當通冬をもれ

て中略 別當ハ道のほとのうりをせよ折烏帽子に

ぬのゑゝまとゝいふものうちきて○枕冊子十七段 長烏

帽子ゝをさしたるよ 人よろゝとおとるゐほ

とに

烏帽子 矢マシキニテ人愛敬アルサマニイヘリ

栄花 ゝゝて西園寺のまへ烏帽子のすゝ烏帽子のあさしき

烏帽子

今物語十三段 神をうきあふせて烏帽子とりて○

源松本あいさやくつきゝみのうりて烏帽子

と○エミカチ也ホ児ノサマナリ○同宿本 女ら物のうしろよ

近つき寄りて烏帽子をうりゝ

六言

烏帽子ほゝ入

今昔七四十三 女房共皆エッホニ入ニケリ○盛衰

記世四大名小名與ニ入テエツホノ會也○字治
拾遺十四土あるく人皆好うきうよ志り保ホ入に
ゆ○

志ひさ酒あり　沈酒（チンシュ）武烈記

後拾雜四　酒つけのへさに志ひさ酒きれうこうきう
つ不と○泉花　物花　志ひなき○源　若菜下　志ひなき
○今昔世八四　一人直キ者モ无ク醉様座テ○大和
物語百四十九　人ゝも志ひ酒あるかとゝも志ひ酒きいも
ゝ酒く○添ふるゝ　皆傳志ひふさりて○

七言

志ひんのあさき　未詳
拾玉四四十ウ

志にう酒ほゝ
大鏡一　志ゝり新ゆるふ不つき志にうまほ
くゝ

火—
水菜—
腰—
水—
耳—
足—

器の部

二言

某桶

和名桶 乎計 俗有火—水菜—腰—等之名 ○字彙保国 上 讓く

つきゝ 桶のおほきさやの名 ○類聚雜要一

ウ 搗粉粥 三斗 白粉 耳桶納之又 足桶一口

とし

古事應神記天皇御歌 美豆多麻流余佐美能
伊気能 韋具比宇知比斯賀良能佐斯祁流斯良

迩奴那波久理波閇祁久斯良迩和賀許々呂志
叙伊夜袁許迩斯豆伊麻叙久夜斯岐○紀作于古
○三代実録卅八 右近衛内瓣冨継長尾末継伎
善散楽令人大咲所謂嗚呼人近之矣○印本
嗚滸トアリ古本ニヨリテ引リ○西宮記ニ
ハ所謂ノ二字ナシ嗚呼者也トアリ○傳ニ云
書紀ノ千古ノアル注ニ釈紀ニ尾蓋也トアル
ハ借字ナルヲ後世ソノ字音ニツキテヒロウ
ト云詞ニ依テ説ヲイフハイミシキヒカコト
ナリ○帰命本願抄人ハ以ヽカヘスくモヲコ

ノケナリ○伐袁中子云孝善有嗚呼気人也○今昔
廿八共六今ハムカシヒエノ山ノ無動寺ニ義清阿闍
梨トイヒシ仏有キ畧此阿闍梨ハ嗚呼絵ハ筆ヲ
キハ□ニ書ケレ𪜈其レハ皆嗚呼絵ノ気色
死シ此阿闍梨ノ書タルニコヽロノエナラス
ミエテヲカシキコトカキリナシ○盛衰記四
十二人々嗚呼々々敷思ヒケル○今昔廿八
廿六腰屈テ嗚呼付テナン有シ

をち
万代集 前摂政左大臣
いろ／＼にうつろふきくも薄きも濃くやをちこちに咲 床夏の花

をち
拾遺雑賀 貫之
きのふまでをちにありし百とせの春のなかはにけふはなりぬる
貫之集 同

をゝ 尾羽
金 雑上 よみ人しらず
とりのこのやうにひなからあはませてとをゝにものはおもひもさらなし
○コレハ尾羽ニ伯
母ニヨセタリ

為忠後百 頼政
○時鳥をちかへりの胡蝶をまちてなけかし今も鳴なり

をる 浪ゐをる
万七
けふもかもおきつ玉もは白浪のやえをるかうへにみたれてあらん
○万廿長哥 白波の八重をるかうへに

をて
紀
山家集下 放生会
みなしごをさかりこそあてゝくりまれなるをとこらしつりの舟の宮人
○深夏をちとあらたか哭えみなり

○

三言

とうろう　岡見　○うしのくれよりとりて五〇中の去凶とんるこ

袖中十八十八　さらむ　云云　この間とのうしひとさらへてお

きとりおきてそもしうきんぬさよめてつきのうしあら

んいるまをうるうのうへるこくとへいおうこれとの

やうふる事をとうまとめてつまつるや

堀百除夜　後拾

こと多のおやつのなもよとうろうを指れうに年とあれ武

散木冬

ときこ　招餌

金雜上　桜井尼

形縮うつまろの唐ふ人ふるよとき高さてうしつこ

拾遺　物名　をけこ

し唐のとき高よせんとこの間へろ　ちあり見れ拾つこ高

○招　日本　紀

六帖　大きこの

つをつまて山よ入よし折らうのいとおきうくきそちこそれせて

後撰　雜三　ちこ人ちに

ふるよをきうくかうしそし唐の人のもにこそふいまとか

丈木七七　久百首　長治　待賢門院　陰女蔵

ふ年をうき世と捨やらて人ものうとき　たそのさ　一ちふ

[illegible]

新勅秋下　頭書　委注○若つら

拾玉一　早苗

小山田の[illegible]

[illegible]

万四十相見者月毛不経示忘云者平曽呂登

吾乎於保寒毳○奥美扶云或人云[illegible]の

國ハ[illegible]

男　下男ヲ云

東鑑廿四　仁治三年三月廿五日庄田四郎二郎

行方訴申盗人新五郎男事署彼男ヲ主人岩本太

郎家清　云云○月五月六日　搦取ロ付ニ次郎男

和名

余抄十一　孫姫式

長月の青つらつゑ一[illegible]

後拾　秋上八月駒じろへと　小駁○尾駁　良暹法師

東坂の風は枝しろ[illegible]

四言

とい〳〵 唯

栄花朝 とい〳〵さゝ〳〵とのゝ〳〵かゝし ○源 玉つら

ヲイヤ

といせこ〳〵とうなりき〳〵 ○監ノ詞こ ○今昔廿五十一 寺

ヲイ然ルニテハ其カヲ投ヨ ○源 宿木 といやゞ

〳〵人ゝ ○ ポノカナナルヘシ

ゝけゝち

古考口實傳 桶餞 柏斧地 ○

とさ〳〵 幹了

万十四

○河海ゝゝき〳〵 引躬恒 假名序曰あゝしのゝゝき〳〵

〳〵けまゝと〳〵〳〵住なれゝあり ○枕冊子 ゝるゝの八紙

とさ〳〵〳〵〳〵のゝゝゝるゝ オトナシキ 三ニ用ユ ○遊士日記上 伝

の人ゝ ゝき〳〵きやゝにもきゝゝゝゝとゝ〳〵あゝて

○古今長哥

ゝるゝぬき

捷衣三上　一オ　そたゝむもちくたふき谷をりおひ出る歌

本もとの孤はけるもちよりもちものふりあるけしき校

さしなをしうとやしもをふるみくしうてらゐきをへ

う中畧

谷ふきあるきもとりもとまれる我ぬきやうふくるのくちてやこゆる

僻案抄云古歌

おく山よりあるもとりもとまれるのもふるきうけてゆこんはのかてにしき

○とこの玉の本の文字云とり

畧して　いやし

夫本出九槇百首御歌谷所庶　光明寺入道殿改

くちぬるあるふしくるあの山ぶとりもとりまなかきる人もなし

同家集秋庶　後二位入道

つくる山ぶとりもとりまきの声ハさくる

同百首歌　安嘉門院四条

つくる山ぶとりまきのくるよりもちさくるあるもとりもとまと花やさるゆ

同治元年竹園千首御會歌槇恩　参議為相

我袖もかさてのくちん奥山よりあるもとりもとまきの声ハさくる

○

ゝちぶしき

佛足石歌　平遅奈伎夜和礼尓於止礼留比止

平於保美○竹取ゝちぶき事ハるふふ人ゝもあるぶ

○古事記清寧表遅那美許曽○続紀卅詔先乃人波

謀平遅奈之我方能久都ゝ久謀天必得天年止念天

○雄畧紀懦弱又怯○欽明紀微弱○古事記傳

四十三　三十三　拙愚ナル意弱キ意ナトヲ兼ネル

コト八也○

をちこち　みちこ　誤

みちの偽

万葉

千載

月詣

続古雑下　土御門院御製

とをちのさとの山道いかならん絶えすしのちいけんのうきをし

和泉式部集　その山のみちをとふらはれし

人ゆかぬ道ならなくにあしかものいつるのはなの山ちこえけん　又

ふかきやまみちたえてとこそ見れいつるのみちはおもふもしれ

○玉雑二　二条院讃岐　伊勢国みちなる所仰すなりしに

らしある人ありて鎌倉右大臣のもとへんとてありけ

るにわか仰ありみちのくにいつくのかのおほやけ仰せれは

やつのくにしるし　善信法師

とをちのみちの山のこちらえしとことをして

えしさむき

われへきいつちのくにの境ならてにふれしつら

ヲハタハニ　嫉ト云

カケタルヤウ也

タカノ―――

トミノ―――

某のをやみ

新古賀　康資王母

萬世の雲のさかの流しけき君とそのみやこかきはかきはみ

同賀　匡房卿

とやかへる鷹のをやまの玉つはきあさな夕なふらしもしらん

続拾賀　亀山院

万代と亀のを山の雲陰を移してはるやとの池水

○とこのを山　丹後　支木ヒ山　○越乃を山　後ハ　支木ヒ九椎　○椿

の雲山　続後拾秋下　前大政大臣　○

玉ノ緒ノ

越ノ山

松ノ山

亀ノ山

槙ノ山

みの山

某のを山

拾遠

青柳の糸より乱る白露は玉のをやかとぞ思ひ乱れ

○堀百葉　紀伊　年をへて雲のを山のあつひをの安法

々師集　桃の花月をかさねてをさへいきなるよはしの雲をと

ゝまもみちのふるわをかれぬ叫れぬとよあら

大しのを山も紅葉のすゑふほりとをれくる雨之ゆ

○本朝文粋　○源橘恭　ほきの雲山○同

椎本同○新古恋五　伊勢　みのを山の家集同○六

帖永恋ハ　○実方集　小一条殿の雲

をにふるとやうるふ後ふるのふせ〳〵ふいるゝの雲のと

ふるの後ふれつゝを山の雲もを云　契云比ふ伝ニヨリテトラレタルニカ大方

ノ物ニ見エ

又ヲ子ナリ

をりえて

万代春下　きぬと柳の枝につまて〳〵生けとて　聖武天皇御製

巻中の人のをりをきれるれと花の枝おもふこゝろを

○添 玉つら 梅の枝ゝ[illegible]の[illegible]ひ[illegible]

る ○同宿木兼の[illegible]の[illegible]ら[illegible]の[illegible]

[illegible]の枕冊子 十三段 [illegible]き枝[illegible]ら[illegible]の[illegible]し

て[illegible]す[illegible]つけ ○同 四十三段 [illegible]の[illegible][illegible]き[illegible]ぬき

に[illegible]の[illegible]枝[illegible]

[illegible]と 折琴

方丈記 [illegible]つき[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

栄花峯月 [illegible]も[illegible]将[illegible]う[illegible]ふ[illegible]

[illegible]や[illegible]せ[illegible]へ[illegible] ○

[illegible]雲 折松

拾遺貞外上

いと[illegible]に[illegible]雲[illegible]

○添[illegible]大 [illegible]の[illegible]の[illegible]に[illegible]ち松[illegible]

[illegible]こ[illegible]き[illegible] 折松 [illegible]と[illegible]も[illegible]出の[illegible] ○公事根源 佛名

[illegible]と契仲[illegible]

出居の[illegible]へに大 櫃 [illegible]り 雲 せ[illegible]

新六タやミ

小車の道[illegible]の雲[illegible]やと[illegible]せ[illegible]ち[illegible]こ[illegible]日八[illegible]

夫木[illegible]の雲[illegible]あれど 契仲

[illegible]雲[illegible]と[illegible] ○夫木十九タ ○円 北三車

五言

をさえぬきて

源をきくれりあらりをさえぬきて〳〵○同 総角 さとさら

ゐおおめきて〳〵そらもの〳〵あつもの○同 初子

おとふきのみ〳〵うえ〳〵きとこえきあつことおとと

〳〵〳〵とうれしそろ

をさえれ

今物語 をはれそうれらうはにて○

をとさうけ 男親人親ノ親ノ

源雲三 そま はうをとうけはいこまして○

をんふおと 女言

源氏 このあうのをんふおとそそうろう〳〵あ〳〵そこに

○今昔廿八二 音気 ハヒ大キニテ男音也○

ととこ志

六言

をうあ内内乃末

古今物名　とのの玉の木

○櫻（ヨカメマノキ）出所可考
後嵯峨法皇御寄
谷御ゝ日彩ふ　ぬる白雪や身りとの身の花と見ん
通証
玉ゝ玉の木のこゝろ　沖のひとつきたれへつる

○栄雅説　は奇日本記竟宴にを

をとはつもとと
賀茂保憲女集　をとつもとにこゝまとゝ
ふり　先ふ　ふ　ふ　ふ
六帖　ふ　ふ　ふ　ふ
ある人のをとつもとのあやしようけ　ことのかるゝもあ

○誘（ヨコツル）紀（ワカツル）○演歩二　招君　をとつもと
えらひて○　今云カラカ意ナリ　○源　夕旁

男聖（ヨトコヒシリ）
盛衰記四十四夫妻ニ縁ナキ身ナリ　今ハ男聖メニ人
ノ者ヲ　肯ン　スレハ○

とのゝはなち
四季談　三月　小野小町ハ　世ふさらひくさとふ
みて人の　図　乱　ゝなもゝうど云云○つれ

をそれのこの事 尾花の粥

康富記 文安五年八月一日云云 今日尾花之粥事其由来何事哉自然見及欲之由令問之給未見及未知其子細候由返答 玉勝間 ○

女使

金葉賀 拾改左大臣中将のよくに仕る元春日祭の使に

くらうに国房内侍女使めてりける ○栄花

紫式部 女使の内侍ゐと ○源氏系 賀茂祭女使

七言

をうとの男

兎のとんぶ 水鏡上 をうとの男きうさうきはめれとんれ ○

九言

小車のほうきの 今俗手車トテ小児ヲナクサムル是也

たのゐ弦上 ふまとれきうをれを小車のうきうとて ○

東鑑六 寛元三年八月廿日今日自二條殿被進

小車御賞翫聊如休御辛若 ○ 将軍頼嗣公今年七歳御不

ノヨリ
ノヲシ○

尾花色のさくらし

宇治保 花妻 尾花色のさくらしかと海のるあとに○

十三言

ゆんかして見るしらくも海のうらや

源若葉 上 女郎花おかしらくもうかしらくも心

つもるらなみし ○同竹川 なよ竹うとまてこそ

まつゝんまけかふてこそ ○宇治保 即初秋上 古仲津自設この

の君と女郎花をおかしくさかりしさくらの女よ

かしてしらくもおかしくさかりしさくらの ○源紅葉賀 女そ

えんはおこのうるはしくて人たちにしたしうしてふる

是ハ源ノ心ニ兵部ノ君ヲ女ニシテ見タキトノ心ナリ ○同同 舞 乱 紅葉

しくらくて女そこそやとはいろ色さくらの心ふかあ

ん ○同後冬 ゆんの海あり さ海そ女そ花ゆ海

りさと ○月きき

○月桂 女そ花そまつりさくらさくらと 是ハ蘭垂ノ心ニ要

宮殿ヲカクロフナレハ ○月総角 女郎ハ心うり星

向ヲ女ニシテナリ

郎とおなの花そ海のうらぬふかしおしよう

狭衣四下廿五オ　うちとけてねきしのふしつき女

衣にそせ満ほしき○栄花廿七衣珠　人此いまてこん

ようや満しくもゆ満れしる色きこゆるや